

## 資料紹介

# 昭和館所蔵 新日本漫画家協会・日本漫画奉公会関係資料

昭和館学芸部

今回紹介する資料は昭和十五年（一九四〇）十一月八月に結成された「新日本漫画家協会」（以下「協会」と）と十八年五月に結成された「日本漫画奉公会」（以下「奉公会」）に係わる資料群である（表1）。それぞれの会の結成から活動内容、解散するまでを所蔵する資料で紹介する。

なお、第一章「戦中の漫画家たちの活動」までを資料係財満幸恵が、第二章「日本漫画奉公会の活動」については資料係吉葉愛が執筆を担当し、翻刻は資料係加藤美和子が行った。

### 一、戦中の漫画家たちの活動

(一) 「新日本漫画家協会」の結成

昭和十三年（一九三八）の「国家総動員法」の施行によって、社会のさまざまな分野に統制が及んだ。それは出版の分野も例外ではなく、出版社ごとの用紙の割当て配給が始まった。さらに、大政翼賛会から出された、漫画による戦争協力の要請に応えるため、漫画家による団体「新日本漫画家協会」が結成された。協会の草稿段階の規約は以下の通りである。

新日本漫画家協会規約（草稿）

一、本会は、新日本漫画家協会と称す。

一、本会、「日本新体制建設運動の文化的協力者たり得る新時代の漫画家」への達成を目標とする諸研究を第一義とし、併せて会員相互の親睦を計るをもつて目的とす。

一、本会は、本会の趣旨に賛成する日本漫画壇の現役的作家をもつて組織す。

一、本会は、委員若干名を置き、研究、企画、事務（書記及会計）各部門を代行す。

一、本会の定期委員会は毎月一回とし、委員三分二以上の出席により成立す。

一、本会の研究会は、大体左の如き事項により、毎月の定期委員会に於いて協議の上具体的方針を樹つるものとす。

(イ) 政治、経済、外交、社会、文化、軍事等の専門家による聴講。

(ロ) 世界及日本美術並に漫画史の研究、世界各国の作家及作

品研究、会員相互の作品研究、漫画芸術理論及技術の研究、

表1 新日本漫画家協会・日本漫画奉公会所蔵資料一覧

	資料名称	年月日	発行者
1	新日本漫画家協会会員名簿		
2	会員名簿（新日本漫画家協会）		新日本漫画家協会
3	会員名簿（新日本漫画家協会）		新日本漫画家協会
4	新日本漫画家協会規約（草稿）		新日本漫画家協会
5	協会だより	昭和18年1月	新日本漫画家協会事務局
6	会計報告	昭和17年12月	新日本漫画家協会会計部
7	日本漫画奉公会規約		
8	日本漫画奉公会記録	昭和18年4月16日	
9	文書綴	昭和18年	
10	文書綴	昭和20年	
11	日本漫画奉公会・班別一覧表	昭和18年5月	日本漫画奉公会事務局
12	領収証（日本漫画奉公会 入会金・十八年度会費）	昭和18年5月	日本漫画奉公会
13	漫画翼賛展（仮称）課題	昭和18年6月	
14	至急 漫画集刊行に附いての御願	昭和18年9月3日	
15	「報国漫画ポスター」発行につき下絵懸賞募集	昭和18年11月8日	日本漫画奉公会
16	労務報国精神昂扬漫画ニ付き	昭和18年12月15日	
17	通知（第二期総会開催）	昭和19年12月	日本漫画奉公会
18	来賓芳名録		
19	封筒（日本漫画奉公会会員名簿）	昭和18年5月	
20	記入用紙（漫画奉公会会員名簿）		
21	日本漫画奉公会 東京在住会員名簿	昭和20年6月1日	
22	通知（漫画慰問のスケジュール）	昭和18年6月26日	高萩炭鉱株式会社事務取締役
23	漫奉記録ノート控へ	昭和18年8月	日本漫画奉公会事務局
24	漫画家派遣農村	昭和18年10月	
25	通知（拳国石炭確保運動）	昭和19年2月25日	情報局第一部 国民運動部長
26	漫画激励隊九州第三班参加者及派遣炭鉱名	昭和19年4月1日	
27	実施要項（似顔慰問隊）	昭和19年10月	日本漫画奉公会事務局
28	実地要項（似顔絵慰問隊）	11日から13日	産業報国会・情報部
29	似顔絵揮毫券	9月24日、25日	日本漫画報国会特派激励慰問漫画隊
30	漫画巡回展示ニ関スル件	昭和20年3月26日	大日本産業報国会中央本部情報部長
31	川崎行参加人員及日程記録		
32	疎開学園漫画慰問連絡おぼえがき	4月25日から28日	大政翼賛会川崎市支部・ 大日本婦人会川崎市支部・日本漫画奉公会
33	生産戦総身軍 突撃賞		大政翼賛会川崎市支部長
34	チラシ「勝ち抜く漫画巡回展 御案内」		日本漫画奉公会・日本産業経済新聞社
35	対外関係住所録便覧	昭和18年5月	
36	新聞掲載キリヌキ	昭和18年4月	
37	漫画界キリヌキ	昭和18年4月	
38	はがき	昭和19年6月	日本漫画奉公会事務局
39	はがき	(昭和19年6月頃)	日本漫画奉公会
40	“漫奉”の戦闘待機所決定	昭和19年8月1日	日本漫画奉公会事務局
41	はがき	昭和20年5月	日本漫画奉公会
42	メモ（空襲被害地図）	(昭和20年5月) 27日	
43	日本漫画奉公会解散決算報告ノ件	昭和20年11月	日本漫画奉公会残務処理事務所

見学、写生旅行、その他。

一、本会は、研究の成果発表手段として、展覧会、出版等を企画す。  
一、本会は会員間の連絡機関として年数回会報を発行す。

一、本会は、諸経済支払のため会費月一円を徴収す。

一、本会は、毎年、回総会を開催し諸種の報告及び来年度の方針につき協議す。

一、新入会及び脱会は、委員会の承認により決定す。尚本会の趣旨に相反する行動ある者又は正当の理由無くして会費六ヶ月以上滞納の者は、委員会の決議により除名す。

一、本会は、事務所（仮）を京橋区銀座西四ノ三数寄屋ビル新漫画派集団（電話京橋三五一九）内に置く。

協会の目的は、『日本新体制建設運動の文化的協力者たり得る新時代的漫画家』への達成を目標とする諸研究を第一義とし、協会の事務所は新漫画派集団内に置くとしている。新漫画派集団は七年六月に誕生し、近藤日出造、横山隆一、杉浦幸雄を中心とする漫画グループである。

協会の主な活動として、機関誌『漫画』の刊行や、会員間の連絡機関として年数回会報発行をすすめている。十八年一月に発行された「協会だより」（図1）を見ると、会員応召などの現状報告や横須賀海軍慰問などの事業報告などを行っていることが分かる。そのほかに、大政翼賛会要請の「献納マンガ」の制作、会でデザインしたキャラクター使用マンガ「翼賛一家」の共同執筆があった。

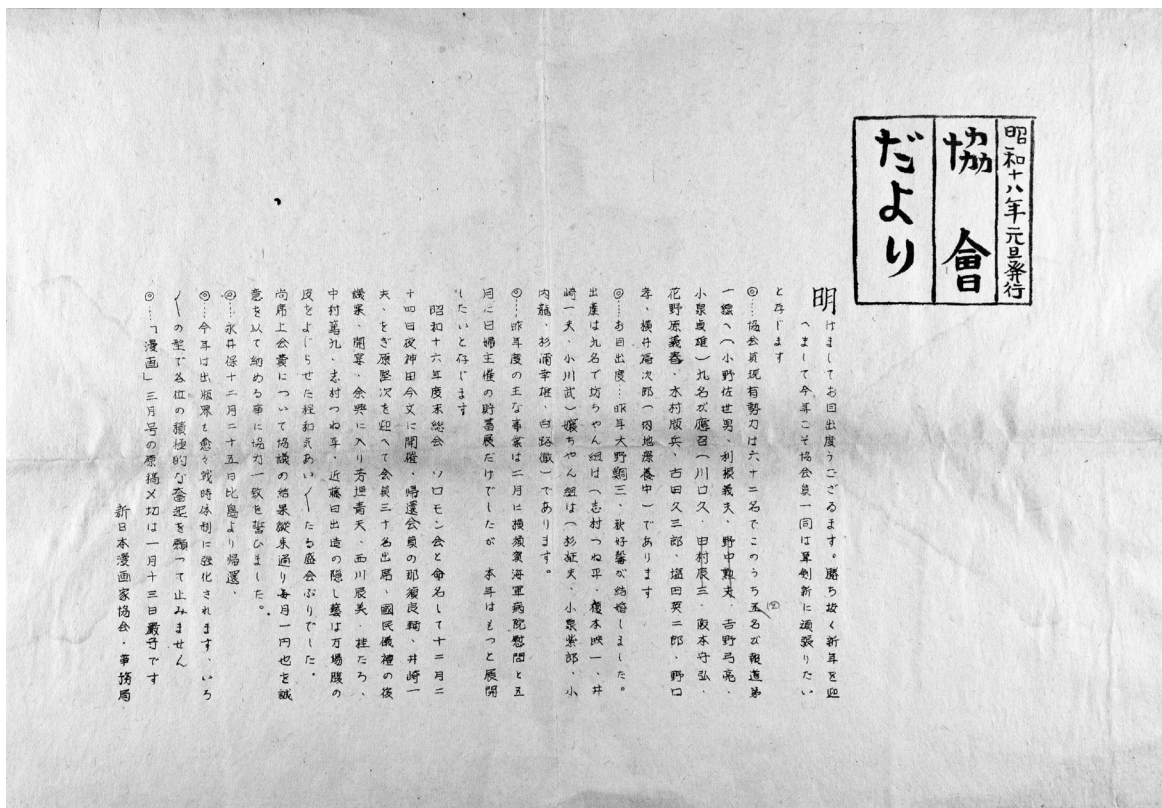


図1 新日本漫画家協会「協会だより」





図3 横山隆一『翼賛一家』



図2 翼賛一家・大和家の家族

## (2) 「翼賛一家」

「翼賛一家」は大和という姓の一家をつくりあげ、その家族一人のキャラクターを定め、翼賛協力金を払えば著作権侵害の心配もなく、誰でも自由に一家のキャラクターを使用してマンガを描くことができるというもので、協会では、そのために各人物の描き方などをいろいろな雑誌にPRした。(図2)

『アサヒグラフ』『婦人倶楽部』『家の光』といった大人の雑誌だけでなく、『少年倶楽部』や『少女倶楽部』などの子ども雑誌にも、「翼賛一家」大和家は登場した。ほかにも書籍や双六なども発行された。昭和館が所蔵する二点の資料を紹介してみる。

書籍『翼賛一家』(図3)は十五年十二月三十日に朝日新聞社が発行した。漫画を描いたのは横山隆一で、『翼賛一家』の宣伝のためにはがき(図4)も制作された。これによると「翼賛一家大和家の生活降りこそ臣道実践のよい見本です」としている。

「翼賛双六」(口絵1)は新日本漫画家協会案・画、大政翼賛会指導として制作され、『漫画』附録として十五年十二月二十八日に発行された。双六のマスのは、協会会員によって描かれた。

## (3) 「日本漫画奉公会」の結成

昭和十六年(一九四二)十二月八日の日米開戦以降、漫画界もより一層の国策への協力が求められるようになった。十八年五月には多くの漫画家に参加して「日本漫画奉公会」が結成された。雑誌の統廃合も進められ、活動の場も狭められたなかで、大政翼賛会漫画展への協力や、決戦漫画展の開催、『決戦漫画集』の刊行など、積極的な活動を行った。



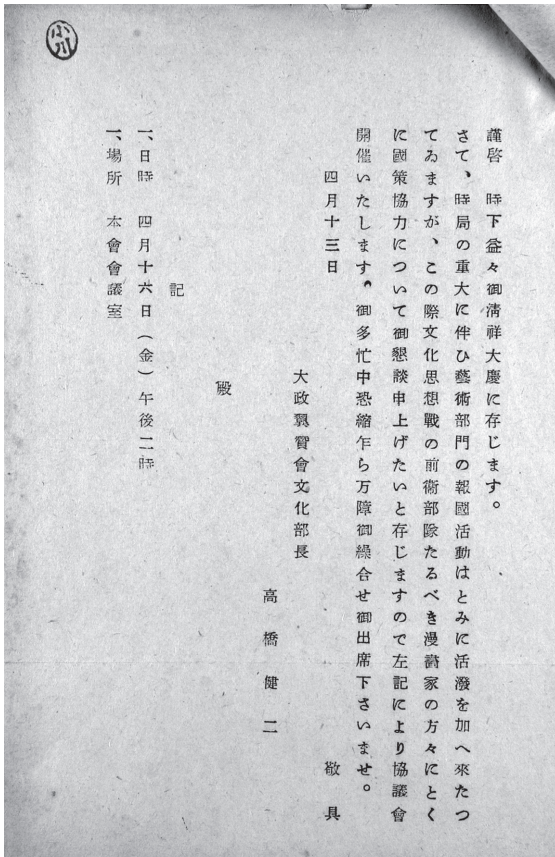


図5 「日本漫画奉公会」文書綴



図4 翼賛一家はがき

戦争が激化していくなかで、用紙不足により雑誌は減ページを余儀なくされ、徐々に粗末なものになっていった。

奉公会設立の経緯については、文書綴(図5)に詳しく記されている。このなかに、十八年四月十三日付で、大政翼賛会文化部長から四月十六日に「文化思想戦の前衛部隊たるべき漫画家の方々にとくに国策協力について」協議会を行う旨の通知があった。この会の記録が「日本漫画奉公会記録」(図6)に記されている。

日本漫画奉公会記録(略号、会記)

漫画界国策協力懇談会

昭和十八年四月十六日(金)午後二時

大政翼賛会第二会議室

大政翼賛会(文化部)主催にて在京全漫画家に招請通知あり出席者七十二名(名簿別冊)その席上出席者一同の総意により「日本漫画奉公会」結成への申合せをなす、猶当会世話人を北沢栄天先生に一任、後日各位へ通知を出す  
(以下略)

この会の出席者の総意において「日本漫画奉公会」結成の申し合わせがあったことが分かる。その後四月十九日に世話人会が開催された。この会の記録も「日本漫画奉公会記録」にみられている。

第一回世話人会

四月十九日午後二時、翼賛会文化部

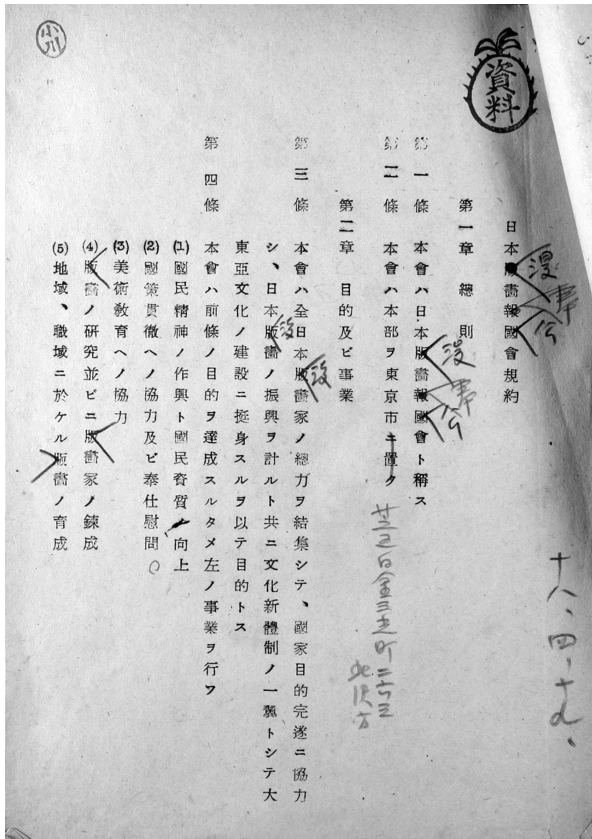


図7 「日本漫画奉公会」文書綴

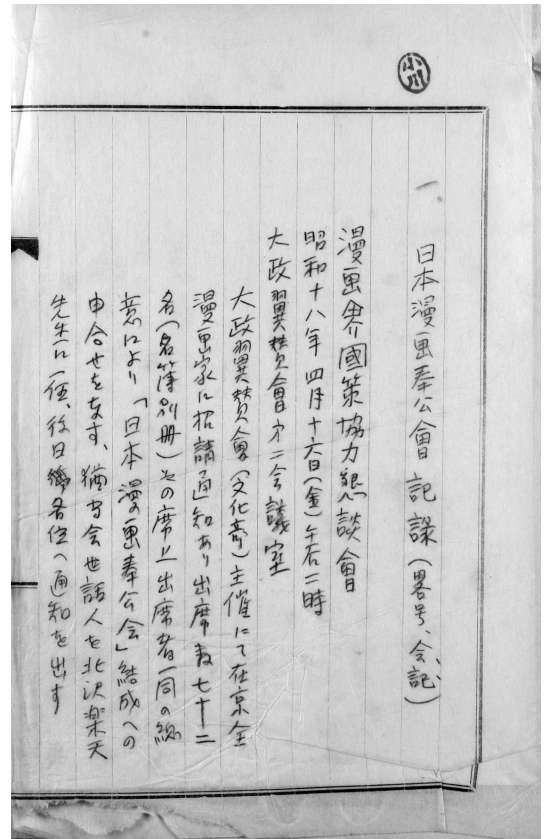


図8 「日本漫画奉公会記録」

#### 第七会議室

○出席者、十三名(漫画家例は後記)

翼賛会側より 氏<sup>(マ)</sup> 氏<sup>(マ)</sup> 氏<sup>(マ)</sup>

情報局より児玉氏

#### ○議案

規約(印刷済み)を第一条より二十三条まで検討、審議す(成案別冊)、

○役員左の如く決議す(○印当日出席者)  
(以下略)

この会の出席者によって規約の検討が進められ、実際に加筆修正されている草稿が文書綴(図7)にみられ、採用された「日本漫画奉公会規約」(図8)は以下の通りである。

#### 日本漫画奉公会規約

##### 第一章 総則

第一条 本会ハ日本漫画奉公会ト称ス

第二条 本会ハ本部ヲ東京市芝区白金三光町二六三番地(電話高輪五七二三番、振替東京七一六一六番)ニ置ク

本会ハ必要ニ応ジ別ニ定ムル規程ニ依リ支部ヲ置クコトヲ得

##### 第二章 目的及び事業

第三条 本会ハ全日本漫画家ノ総力ヲ結集シテ、国家目的完遂ニ協力シ、日本漫画ノ振興ヲ計ルト共ニ文化新体制

制ノ一翼トシテ大東亜文化ノ建設ニ挺身スルヲ以テ  
目的トス

第四 条 本会ハ前条ノ目的ヲ達成スルタメ左ノ事業ヲ行フ

- 一、戦争遂行国策貫徹ヘノ協力及ビ奉仕慰問
- 二、国民精神ノ作与ト国民資質ノ向上
- 三、美術教育ヘノ協力
- 四、漫画ノ研究並ビニ漫画家ノ錬成
- 五、地域、職域ニ於ケル漫画ノ育成
- 六、大東亜ニ於ケル文化事業ヘノ協力
- 七、日本漫画研究所ノ設立
- 八、展覧会、講習会、講演会等ノ開催
- 九、文化各部門及ビ諸官庁、諸団体トノ連絡
- 十、優秀ナル漫画家ノ表彰ト新進版画家ノ育成
- 十一、漫画用具ノ斡旋
- 十二、調査、出版
- 十三、ソノ他必要ナル事業

### 第三章 会 員

第五 条 本会ハ漫画報国ニ垂範挺身セントスル漫画家、並ニ  
本会ノ目的達成ニ純粹ナル熱意ヲ有スル協力者ヲ以  
テ組織ス

第六 条 本会員ヲ正会員、名誉会員、賛助会員ノ三種トス

第七 条 正会員ハ入金三円也ヲ納メ所定ノ手続ヲ経タル者  
ニシテ会長ノ承認ヲ得タル者トス

名誉会員及ビ賛助会員ハ漫画界ニ功労アリタル者

又ハ本会ノ事業ニ協力セントスル者ノ中ヨリ理事会  
ノ議決ヲ経テ会長コレヲ推薦ス

第八 条 正会員ニシテ退会セントスル者ハ会長ノ承認ヲ受ク  
ルコトヲ要ス

第九 条 会員ニシテ本会ノ綱領規約ニ違背シタル者ハ理事会  
ノ議決ヲ経テ会長コレヲ除名スルコトヲ得

### 第四章 役 員

第十 条 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

会長 一名

副会長 一名

顧問 若干名

参与 若干名

評議員 若干名

理事 若干名

監事 若干名

第十一 条 会長ハ本会總會ニ於テ之ヲ推挙ス

会長ハ会務ヲ統理ス

第十二 条 副会長ハ会長之ヲ指名ス

副会長ハ会長ヲ補佐シ会長事故アルトキハ其ノ職務  
ヲ代理ス

第十三 条 顧問ハ会長之ヲ委嘱ス

顧問ハ会長ノ諮問ニ応ズ

第十四 条 参与、理事、監事ハ会長之ヲ指名又ハ委嘱ス

第十五 条 参与ハ本会ノ運営ニ関シ会長ノ諮問ニ応ジ、且意見



# 日本漫畫奉公會規約

## 第一章 總 則

第一條 本會ハ日本漫畫奉公會ト稱ス  
第二條 本會ハ本部ヲ東京市芝區白金三光町二六三番地（電話高輪五七二三番、振替東京七一六一六番）ニ置ク

本會ハ必要ニ應ジ別ニ定ムル規程ニ依リ支部ヲ置クコトヲ得

## 第二章 目的及ビ事業

第三條 本會ハ全日本漫畫家ノ總力ヲ結集シテ、國家目的の完遂ニ協力シ、日本漫畫ノ振興ヲ計ルト共ニ文化新體制ノ一翼トシテ大東亞文化ノ建設ニ挺身スルヲ以テ目的トス

## 第四章

本會ハ前條ノ目的ヲ達成スルタメ左ノ事業ヲ行フ

- 一、戰爭遂行國策貫徹ヘノ協力及ビ奉仕慰問
- 二、國民精神ノ作興ト國民資質ノ向上
- 三、美術教育ヘノ協力
- 四、漫畫ノ研究並ビニ漫畫家ノ鍊成
- 五、地域、職域ニ於ケル漫畫ノ育成
- 六、大東亞ニ於ケル文化事業ヘノ協力
- 七、日本漫畫研究所ノ設立
- 八、展覽會、講習會、講演會等ノ開催
- 九、文化各部門及ビ諸官廳、諸団体トノ連絡
- 十、優秀ナル漫畫家ノ表彰ト新進版畫家ノ育成
- 十一、漫畫用具ノ斡旋
- 十二、調査、出版
- 十三、ソノ他必要ナル事業

## 第三章 會 員

第五條 本會ハ漫畫報國ニ垂範挺身セントスル漫畫家、並ニ本會ノ目的達成ニ純粋ナル熱意ヲ有スル協力者ヲ以テ組織ス

第六條 本會員ヲ正會員、名譽會員、贊助會員ノ三種トス

第七條 正會員ハ入會金三圓也ヲ納メ所定ノ手續ヲ經タル者ニシテ會長ノ承認ヲ得タル者トス

第八條 名譽會員及ビ贊助會員ハ漫畫界ニ功勞アリタル者又ハ本會ノ事業ニ協力セントスル者ヲ中ヨリ理事會ノ議決ヲ經テ會長コレヲ推薦ス

第九條 正會員ニシテ退會セントスル者ハ會長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第十條 會員ニシテ本會ノ綱領規約ニ違背シタル者ハ理事會ノ議決ヲ經テ會長コレヲ除名スルコトヲ得

## 第四章 役 員

第十條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名  
副會長 一名  
顧問 若干名  
參 與 若干名  
評議員 若干名  
理 事 若干名  
監 事 若干名

第十一條 會長ハ本總會ニ於テ之ヲ推舉ス  
會長ハ本會總務ヲ統理ス  
副會長ハ會長之ヲ指名ス

ヲ具申スルコトヲ得

第十六條 評議員ハ會員中ヨリ理事會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ委嘱シ、ソノ諮問事項ヲ審議ス

評議員ノ内若干名ヲ常任トシ理事會ニ出席シテソノ諮問ニ応ズ

第十七條 理事ハ理事會ヲ組織シ本會ノ運営ニ当ルモノトス

理事中一名ヲ理事長トシ一名ヲ副理事長トス

理事長及ビ副理事長ハ會長之ヲ指名ス

理事長ハ會長ノ指揮ヲ承ケ本會ノ運営ヲ總括ス

副理事長ハ理事長ヲ補佐シ理事長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

理事中若干名ヲ常務理事トシ會長之ヲ指名ス

常務理事ハ理事長ノ指揮ヲ承ケ本會ノ運営ニ従事ス

監事ハ本會ノ業務、財産及會計ノ監査ニ當ルモノトス

第十八條 但重任ヲ妨ゲズ

第十九條 本會ノ役員ノ任期ハ一年トス

第五章 會議と會計

第二十條 毎年一回左ノ事項ヲ議スルタメ總會ヲ開ク

一、役員ニ関スルコト

一、予算決算ニ関スルコト

一、規約改正ニ関スルコト

一、ソノ他重要ナル事項

必要ニ応ジ臨時總會ヲ開クコトヲ得

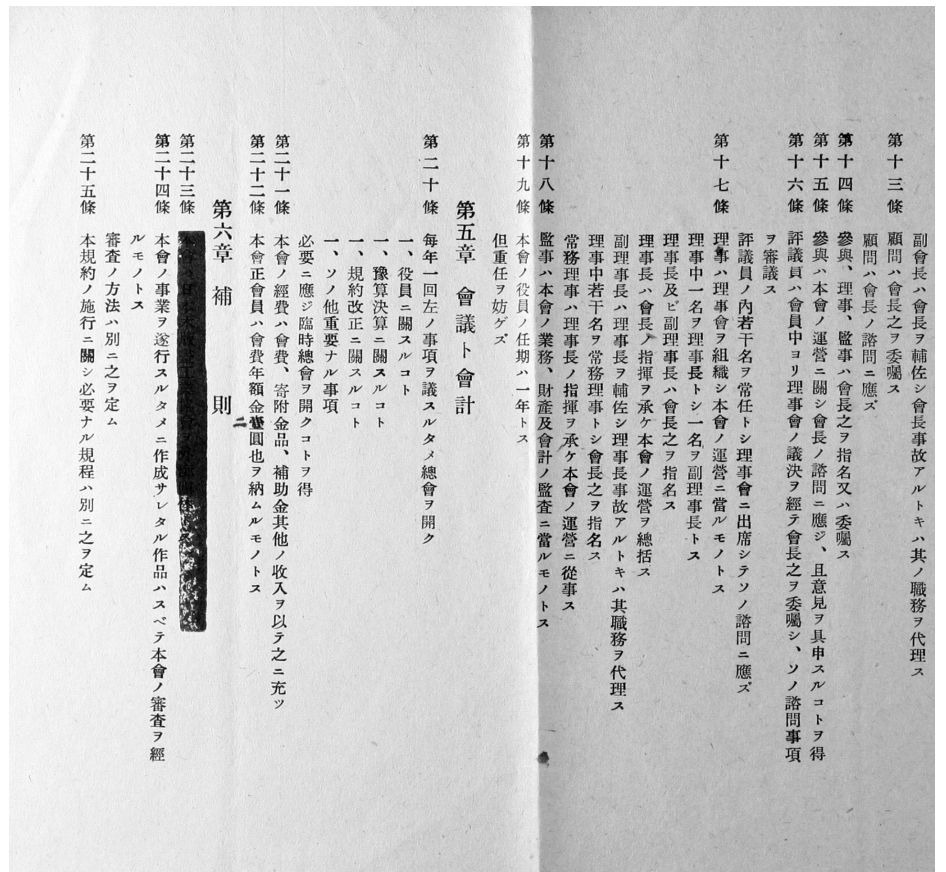


図8 「日本漫画奉公会規約」

第二十五条 本規約ノ施行ニ關シ必要ナル規程ハ別ニ之ヲ定ム

これらを比較すると、いくつか変更が行われている。まず第四条の目的を達成するための事業では十三の項目を列記している。草稿段階では以下となっている。

- ① 国民精神ノ作与ト国民資質ノ向上
  - ② 国策貫徹ヘノ協力及ビ奉仕慰問
- 「日本漫画奉公会規約」では以下となっている。

- ① 戦争遂行国策貫徹ヘノ協力及ビ奉仕慰問
  - ② 国民精神ノ作与ト国民資質ノ向上
- 「国民精神ノ作与ト国民資質ノ向上」より「戦争遂行国策貫徹ヘノ協力及ビ奉仕慰問」が最重要だと考えられていたことが分かる。

次に草稿では明記されていない条項が二点削除加筆されている。第二十三条には「本會ハ日本木版画工業協會ヲ外郭団体トス」と記載され、理由は不明であるが、墨で塗りつぶされ削除されている。また、第二十四条には「本會ノ事業ヲ遂行スルタメニ作成サレタル作品ハすべて本會ノ審査ヲ經ルモノトス 審査ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム」と記されている。

この世話人会により規約が検討審議され、役員ノ決定も行われた。会の開催後に大政翼賛会文化部内に日本漫画奉公会準備委員会が設置され、五月一日に大政翼賛会大会議室で奉公会結成式が挙行することが、四月二十五日付で通知されている。

結成式の式次第は以下である。

日本漫画奉公会結成式

五月一日(土)午後一時

於 本会大会議室

司会 翼賛会

一、開会式

国民儀礼

開会ノ辞(文化部長)

一、座長推挙(座長、岡本一平)

一、経過報告(麻生 豊)

一、規約発表(小川 武)

一、会長推挙(会長、北沢楽天)

一、会長挨拶

一、役員発表(田中比左良)

一、来賓挨拶

大政翼賛会

情報局

陸軍省

海軍省

日本文学報国会

日本出版会

日本少国民文化協会

一、宣誓(西川辰美)

一、閉会式

海ゆかば斉唱

万歳泰唱

閉会ノ辞

閉式後、創立総会を開催

こうして奉公会は十八年五月一日に結成され、展覧会や向上慰問などの活動を精力的に行った。奉公会の活動内容については、次の章に譲ることとする。

(4) 奉公会事務局の設置

当初奉公会の事務局は会長北沢楽天の自宅(東京市芝区白金三光町)に設置されていた。適当な事務所が見つからず、ようやく十九年六月に事務局を京橋区(現・中央区)銀座五丁目辻村ビル四階に移転した。その時の移転通知(図9)が以下のように出されている。

謹啓 初夏の候筆剣愈々御勇健の段奉賀上候陳者今般事務局を左示の処に移転、六月一日より執務仕候間右御報告申上候 尚新事務局には集会に適当なる和室二三有之、敷物・喫茶等の用意も相整へ申候間精々御利用成被下度候 敬具  
移転先

京橋区銀座五丁目四番地 辻村ビル四階

日本漫画奉公会事務局 電話 銀座(57) 三九六〇番

奉公会の事務局が京橋区銀座五丁目に転移した直後の同年八月に、空襲などによる事務局の罹災を想定し、三ヶ所の「戦闘待機所」を決定し



時局板公私共愈々御繁忙の事と存じ上げます。本会は五月廿五日罹災、事務所を新宿伊勢丹内に移し廿六日から航空工業会依頼の防謀、戦列復帰、戦災者激励等を内容とする。ボスター十五種千六百枚を制作致しました。これが完了後、役員総がかりで旧事務所を整理し、新宿から銀座へ復帰致し、まして事務を開始致しました。引き続き近県諸工場へ慰問激励の漫画奉公に邁進して、お祈りす。事務開始を兼ね、近況お知らせまで、尚、今更とも一層の指導、激励をお願ひ申上げます。(電話焼失のため目下不通です)

京橋区銀座五丁目四番地(辻村ビル内)

日本漫画奉公会

図11 事務所の被災通知

謹啓 初夏の候筆剣愈々御勇健の段奉賀上候。陳者今般事務局を左示の處に移転。六月一日より執務仕候間、右御報告申上候。尚、新事務局には、信託會に適當なる和室三三有之、敷物、喫茶等の用意も相整へ申候間、精々御利用或被下度候。敬具

先 転 移

京橋區銀座五丁目四番地  
辻村ビル四階

日本漫画奉公会事務局  
電話 銀座(57) 三九六〇番

図9 日本漫画奉公会事務局の移転通知

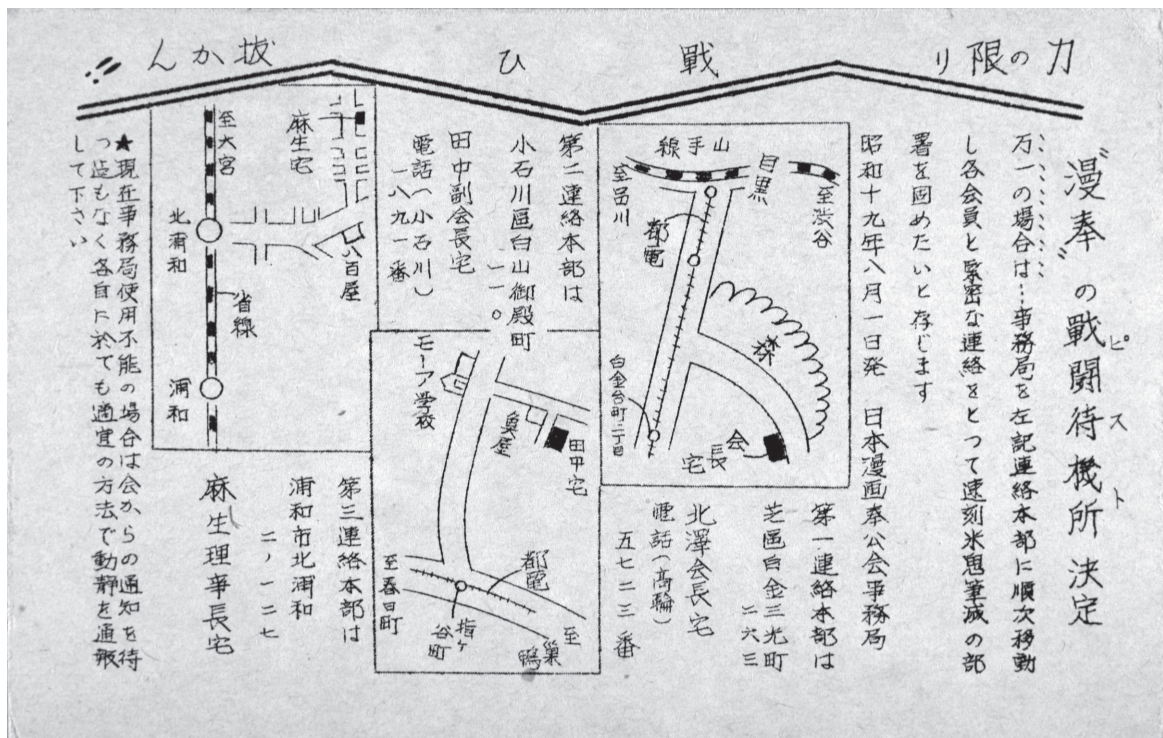


図10 「漫奉の戦闘待機所 決定」

て、会員に通知(図10)している。

「漫奉」の戦闘待機所決定

万一の場合は、事務局を左記連絡本部に順次移動し各会員と緊密な連絡をとつて速刻米鬼筆滅の部署を固めたいと存じます

昭和十九年八月一日発 日本漫画奉公会事務局

第一連絡本部は芝区白金三光町二六三

北澤会長宅 電話(高輪)五七二三番

第二連絡本部は小石川区白山御殿町一一〇

田中副会長宅 電話(小石川)一八九一番

第三連絡本部は浦和市北浦和二ノ一二七

麻生理事長宅

★現在事務局使用不能の場合は会からの通知を待つ迄もなく各自に於ても適宜の方法で動静を通報して下さい

奉公会の事務局は二十年五月二十五日の空襲において罹災した。しかし航空工業会が依頼したポスター千六百枚の制作があつたため、翌二十六日事務所を新宿伊勢丹内に移し、ポスター制作を行い、その後奉公会会員で罹災した銀座五丁目の事務局を整備した。この時の状況報告を会員に通知(図11)している。

時局柄公私共愈々御繁忙の事と存じ上げます。本会は五月廿五日罹災、事務所を新宿伊勢丹内に移し廿六日から航空工業会依頼の防諜、戦列復帰、戦災者激励等を内容とするポスター十五種千六百枚を制

作致しました。これが完了後会員総がかりで旧事務所を整備し、新宿から銀座へ復帰致しまして事務を開始致しました。引き続き近県諸工場へ慰問激励の漫画奉公に邁進しております。事務開始を兼ねまして近況お知らせまで尚今后とも一層の御指導御激励をお願い申し上げます。(電話焼失のため目下不通です)

京橋区銀座五丁目四番地(辻村ビル内)

日本漫画奉公会

奉公会会員であつた小川武<sup>(1)</sup>は、事務局のあつた銀座五丁目周辺の空襲被害状況を絵に記している。(口絵3)

このように、奉公会事務所は会長北沢楽天の自宅内に設置され、その後銀座五丁目の辻村ビル四階に移転した。しかし、空襲による罹災にあい、伊勢丹内に一時移動した。その後罹災した事務所があつたビルの二階で奉公会を解散している。

#### (5) 奉公会の解散

昭和二十年八月十五日「玉音放送」によつて戦争は終結した。奉公会も会員の多数が東京より疎開していたため、同月二十三日に東京残留会員が集合して協議を行い解散した。十一月に決算報告(図12)が会員に通知された。

#### 日本漫画奉公会解散決算報告ノ件

過ぐる八月二十三日、東京残留会員全集合協議の結果、日漫画の解散を断行致しましたことは既報の如くであります。



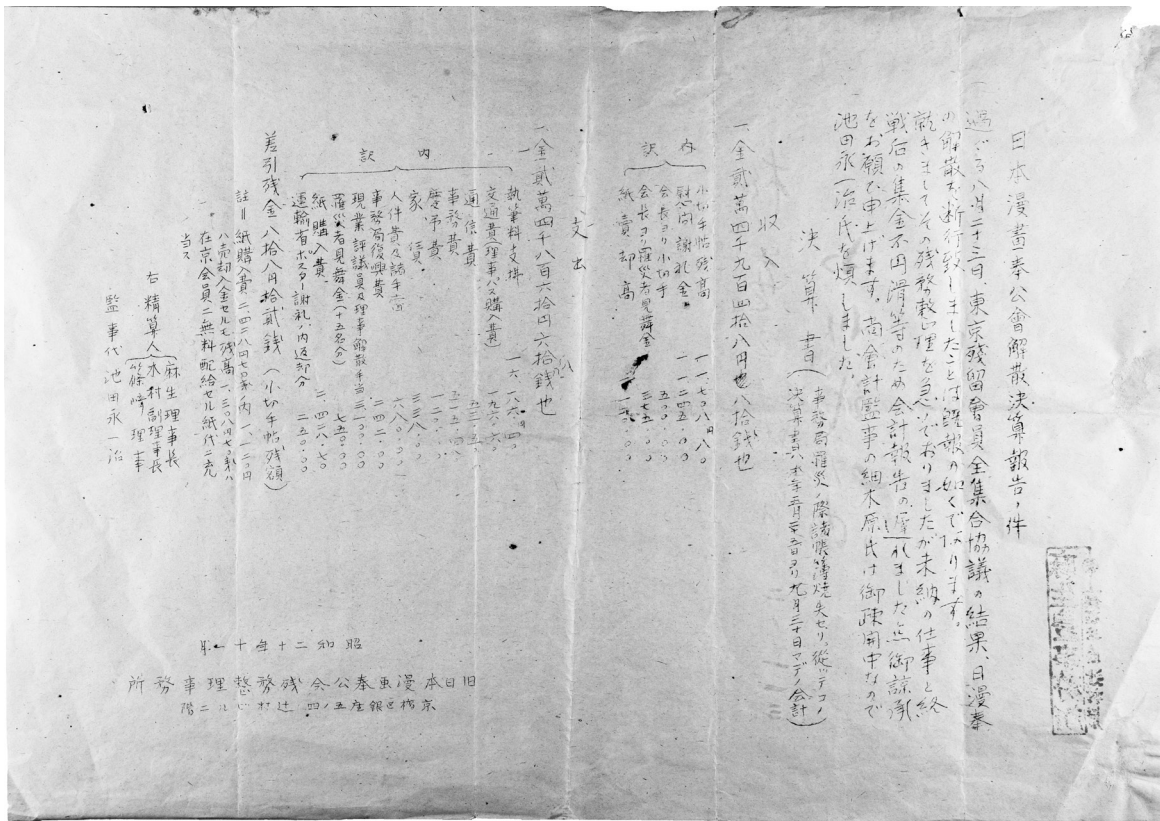


図12 「日本漫画奉公会決算報告」

就きましてその残務整理を急いでおりましたが未納の仕事と終戦後の集金不円滑等のため会計報告の遅れました点御諒承をお願い申し上げます。尚会計監事の細木原氏は御疎開中なので池田永一治氏を煩わしました。

決算書

事務局罹災ノ際諸帳簿焼失セリ。従ツテコノ決算書ハ本年五月二十五日ヨリ九月三十日マデノ会計

収入

一、金式萬四千九百四拾八円八拾錢也

内訳

- 小切手帖残高 一一、七〇八円八〇
- 慰問謝礼金 一一、二四五・〇〇
- 会長ヨリ小切手 五〇〇・〇〇
- 会長ヨリ罹災者見舞金 三七五・〇〇
- 紙売却高 一二〇・〇〇

支出

一、金式萬四千八百六拾八円八拾錢也

内訳

- 執筆料支払 一六、一八六円四〇
- 交通費（理事パス購入費） 一九六・六〇
- 通信費 五三・五〇
- 事務費 五一五・四八
- 慶弔費 一二〇・〇〇
- 家賃 三三八・〇〇
- 人件費及諸手当 六八〇・〇〇
- 事務局復興費 二四二・〇〇
- 現業評議員及理事解散手当 三一〇〇・〇〇



罹災者見舞金（十五名分） 七五〇・〇〇

紙購入費 二、四二八・七〇

運輸省ポスター謝礼ノ内返却分 二五〇・〇〇

差引残金八拾八円拾貳銭（小切手帖残額）

註Ⅱ紙購入費二、四二八円七〇銭ノ内一、一二〇円ハ売却入金

セルモ残高一、三〇八円七〇銭ハ在京会員ニ無料配給セル紙

代ニ充当ス

麻生理事長

右精算人 木村副理事長

篠崎理事

監事代 池田永一治

昭和二十年十一月

旧日本漫画奉公会残務整理事務所

京橋区銀座五ノ四 辻村ビル二階

これにより、十八年五月一日に結成した奉公会は二年余りの活動を停止したのである。

## 二 日本漫画奉公会の活動

奉公会の主な活動は、戦意高揚を目的とした漫画の制作や、国策に沿ったさまざまなテーマの展覧会開催、地方や軍需工場への慰問活動などである。一部には、報道班員として戦地に派遣される者や、陸軍参謀本

部の囑託として伝単の作成を行った会員などもあった。

その多岐にわたる活動を、会の統率を図りながら会員へ分配していくために、奉公会では所属会員を班に分け活動を行っていた。

奉公会が作成した昭和十八年五月時点の「班別一覧表」によると、会員は第一班から第十班に分けられ、第一班から五班までは各十一名、第六班から十班までは各十名の画家で構成されている。後述の全十班の派遣先を見ると、この一覧は東京支部の会員のものと思われるが、総計一〇五名の会員が所属していたことが分かる。

奉公会に所属する会員数について、翌年六月に記された総会報告用の資料によると、六月末日段階では次の通り（表2）である。

表2 日本漫画奉公会会員数

会員総数	146名
関西支部会員	26名
東京支部会員	120名

東京在住会員の内訳	
応召中	11名
応徴中	10名
現地派遣	6名
地方及疎開中の会員	5名
東京在住の会員	83名

昭和19年6月末日現在

会員総数一四六名のうち、関西支部二六名、東京支部は一二〇名と、奉公会会員の半数以上が東京在住の会員で占められていたことが分かる。また後述の活動内容をもみても、その活動の多くは東京を拠点に展開

されていた。先に紹介した「班別一覧表」では会員数一〇五名であったのに対し、表2にみる一年後の所属会員数は、東京支部（二二〇名）だけをも増加している。しかし実質の活動可能な会員数をみてみると、東京支部会員のうち、およそ四分の一が応召や疎開などで活動ができない状況にあり、実際に活動できる会員が減少していたことがうかがえる。奉公会の創立から十九年十二月までの活動が記された「日本漫画奉公会『事業』展覧会及慰問行」からは、戦時下における奉公会の活動の多忙さを読み取ることができる。

- ① 必勝（二七〇億貯蓄）貯蓄強調ポスター展  
一八、六、二〇／大政翼賛会指導／銀座商店街飾窓ニテ／七月―大阪巡回／一〇一点
- ② 戦力増強、決戦マンガ展  
一八、七、七―一〇／本会、陸軍省、情報局、読売後援／松屋／読売主催で東北巡回／八五点
- ③ 輸送戦士感謝「戦ふ国鉄マンガ」展  
一八、八、一六ヨリ二〇／東京鉄道局後援／三越及鉄道博物館／東鉄管内各主要駅／一〇〇点
- ④ 新穀感謝農村派遣  
一八、一〇、二〇／大政翼賛会指導／一班三名、十班関東中心近県へ／二〇名動員
- ⑤ 新兵器マンガ展  
一九、三、八、二週間／毎日主催、情報局／新宿伊セ丹／九八点
- ⑥ 砦山感謝激励隊

- 一九、四、二出発約十五日間／石炭統制会、陸軍情報局指導派遣／九州、北海道各三班常盤<sup>(マツ)</sup>一班／計七十名
- ⑦ 勝ち抜くマンガ展  
一九、五、二四―六、四／海軍省、日本産業経済新聞、くろがね会、海防義会後援／三越／全国巡回／九八点
- ⑧ 川崎市並に軍需工場派遣慰問勤奉隊派遣  
一九、五、二六、二七／二十二名七七六枚
- ⑨ 川崎生産総進軍移動展  
一九、六、二〇／同市二十工場／二十五点
- ⑩ 走るマンガ展  
一九、七、二〇／都交通局、読売主催／都電内へ展示／三十二点
- ⑪ 定額貯金巡回展  
一九、八、二ヨリ／通信院貯金局主催／全国、各貯金支局巡回／二十五人、二五〇点
- ⑫ 農村慰問隊  
一九、八、一五、月末迄／大政翼賛会派遣／東北六県、北陸四県下へ／一班二名 計二十名
- ⑬ 川崎市重要工場マンガ突撃隊  
一九、七、一三 八、二三迄／川崎翼賛会支部主催／同市二十工場及市役所、警察郵便局／延動員五八名／一五五八枚作画
- ⑭ 「明るい窓」展示  
一九、九、七 一一、七まで／川崎翼賛会支部主催／同市、小美百貨店／二〇名
- ⑮ 小田急ハタノ陸軍病院慰問

一九、一〇、一五／軍人援護協会／同所／一九名／二〇〇枚

⑯ 芸能隊

一九、二、八／大政翼賛会文化動員部主催／第一陣トシテ木村四郎氏  
島根県下へ約九日間

⑰ 第一回漫画展

一九、一一、一二—一九／大政翼賛会主催／三越／応募一、一八二点、  
入選八二点

⑱ 国民美術展示所

一九、一二、一／第一回分トシテコドモもの／五〇点

⑲ 「造れば勝つ」航空機増産マンガ新聞

一九、一二、四ヨリ来年一月一杯／川崎市日婦、翼賛主催／川崎駅構  
内／一八点

⑳ 重要工場マンガ壁新聞「笑明弾」

一九、十二、八ヨリ十週間／川崎翼賛会支部主催／第一階分ヒューム  
管工場(マ)の分／肉筆一週一枚九名、計九〇点

総計

展覧会・展示 八五六点、

似顔(絵) 二万三七二二枚、五〇人として一人四七四枚

原稿類 六七〇枚／延動員一千八百四十九人

会合 五十六回 一〇二八人延集合

これらは東京支部のみの活動であり、関西支部の十九年度の開催事業  
内容は次の通りである。

昭和十九年度

- ・第一回産軍戦士漫画慰問／三月／大阪府産報委嘱(約廿日間二十工場)
- ・出征遺家族似顔画揮毫／四月／大阪府軍事課委嘱
- ・建艦献金 街頭漫画似顔画揮毫／五月二七日／大阪心齋橋筋十合前ニ  
テ／漫奉関西支部主催 大阪地方海軍人事部後援／純益金 四百余円  
海軍へ献金ス
- ・第二回産軍戦士漫画慰問／六、七月(約四五日間 七十工場)／大阪  
府産報委嘱
- ・鉦山戦士漫画慰問(約十日間四国地方巡廻)／八月／西部地方鉦山局  
委嘱
- ・産業戦士漫画慰問／兵庫県産報委嘱(約十五日間二十五工場)／九月
- ・第三回産軍戦士漫画慰問／大阪府産報委嘱(約四十日間五十工場)／  
十、十一月
- ・減敵の翼献金 街頭漫画似顔画揮毫／十二月八日、九日／大阪心齋橋  
筋十合前ニテ／漫奉公会主催／純益金 四百余円 陸軍へ献金

以上が結成から昭和十九年十二月までの約一年半における、東京支部  
および関西支部の活動概要である。展覧会だけをも、結成直後の  
十八年六月に開催された「必勝(二七〇億貯蓄)貯蓄強調ポスター展」  
をはじめ、合計二回の展覧会で計八五六点もの作品を創り出している。  
さらに、慰問先で描いた似顔絵については、計二三、七一二枚と、膨大  
な数を作成していたことが分かる。

当館で所蔵する奉公会関連の資料のうち、上記の「日本漫画奉公会」事



業』展覧会及慰問行」に記された事業に関連する資料をいくつか紹介したい。

④ 新穀感謝農村派遣

奉公会の慰問派遣は、全国の炭坑や各県の軍需工場、地方農村などが主たる派遣先であった。十八年十月の「漫画家派遣農山村」の資料によると、この時に行われた派遣の詳細は次の通りであった。

(村名)

東京都南多摩郡七生村	一九、二十日	一班
茨城県新治郡園部村	一八、十九日	二班
埼玉県大里郡男衾村	一九、二十日	三班
山梨県中巨摩郡鏡中條村	一八、十九日	四班
神奈川県中郡相川村	一九、二十日	五班
群馬県吾妻郡坂上村	一八、十九日	六班
千葉県夷隅郡千町村	二〇、二十一日	七班
静岡県田方郡北狩野村	一八、十九日	八班
栃木県上都賀郡西方村	一八、十九日、二十日	九班
長野県東筑摩郡笹賀村	一九、二十日	十班

各班からは二名の画家が派遣されており、一班には杉浦幸雄、七班には松本かつぢ、十班には小川武の名が記されている。この派遣の様子が十月十五日付『読売新聞』に掲載されている。

増産農村へ漫画慰問

食糧決戦にも勝ち抜く覚悟を深めようと翼賛会では来る十一月二十三日の新嘗祭当日を中心に一週間、全国一斉に新穀感謝行事を展開するが、それに先だち戦ふ農村の眞姿を漫画の筆に乗せて新穀感謝、食糧確保、食糧増産の趣旨を一般に宣伝さすとともに増産戦場に敢闘する食糧戦士を漫画、紙芝居によつて慰問激励するため日本漫画奉公会の中村篤九、清水崑、杉浦幸雄画伯等二十名を一班二名十班に分け十八日より近県農村十ヶ所に派遣する、十五日朝九時より翼賛会で進発式を行ひ藤井実践局長より激励された、なほ現地報告漫画展は十一月十日頃行ふ筈

農村への漫画家派遣は「新穀感謝行事」の一環として派遣されており、それぞれの画家は似顔絵のほか、手製の紙芝居などを通じて慰問活動を行つていた。さらに、このような活動は漫画家を派遣するだけにとどまらず、制作物は会員たちが帰京した後も活用されることになる。派遣先で制作された作品の多くは、奉公会や主催者に取り集め、展覧会として各都市を巡回することで、地方と都市の情報共有の場としても機能していたのである。

⑥ 砒山感謝激励隊

昭和十九年四月二日から約十五日間、石炭統制会及び陸軍情報局から「砒山感謝激励隊」が派遣された。この派遣では九州と北海道へ各三班、常磐へ一班の合計七十名が動員されている。

派遣にあたっては、まず情報局第一部の国民運動課長から奉公会に対

し、「挙国石炭確保運動」への協力が要請されたことに始まる。

拝啓 時局下国策宣伝について不断の御協力の程感謝仕候

陳者現下戦力の源泉たる石炭の大増産は喫緊の要務に有之先般来情報局指導の下に「挙国石炭確保運動」として著々進捗中に有之候処日本漫画奉公会に於かれては今回この壮挙に対し彩管を以て寄与せんとする極めて意義ある企図を有せることを承り洵に御同慶に不堪候

貴下に於かれても御多用中恐縮乍ら多少の時日を割愛され奮つて御挙に御参加されん事を切望仕候

昭和十九年二月二十五日

情報局第一部 国民運動課長 彌富元三郎

この「挙国石炭確保運動」の一環として、実際に「砒山感謝激励隊」が派遣されたのは四月一日からであり、わずか約一ヶ月の間に計画・準備されていたことが分かる。このような依頼を受けて奉公会では各会員にその主旨と参加を募る案内を作成している。

今般

「挙国石炭確保運動期間」ニ当り、情報局ヨリ本会会員ニ、炭砒戦士へ感謝ト慰問ノ為メ派遣方ノ要請カアリマシタ。

御承知ノ様ニ、石炭ハ戦力ノ根幹ヲナスモノ、然シテ日夜出炭ニ敢闘スル炭砒戦士ノ士氣如何ハ、実ニ重大ナ影響ヲ持ツモノデアリマス。コノ秋、吾々奉公会会員ガ筆力ヲ捧ゲテ慰問行ヲスル専ハ、直

接戦力ノ増強ニ邁進スルコトニナルト思ヒマス。幸ヒ炭砒方面ノ情報ニヨリマスト漫画ノカ、ル催シハ、大歓迎ヲ受ケル由デゴザイマス。

会員中ニハ多数ノ名譽ノ徵用戦士ヲ出シマシタ、今日ニアツテモ続々ト応徵シテ居リマス 家庭ノ事情ヤ其他ノ理由ハ多々オアリノ事ト存ジマスガ、コレ等応徵ノ戦友ニ対シテ吾等モ徵用ノ意氣込デ御参加ヲ得タイト思ヒマス。

○出発ハ大体各班四月一日頃ノ予定

北海道班 十五日間ノ予定

常盤班<sup>(マ)</sup> 七日間

九州班 十五日間

○旅費、宿泊、食事等ノ費用ハ全部、石炭統制会ニテ負担

○一日絵具代トシテ十円支給

○炭砒ノ勤続者、成績秀<sup>(マ)</sup>者等ノ漫画似顔ヲ揮毫シ又、ソノ家族ノ為講演、紙芝居、漫談等、慰安会ヲ催ス。

○帰京後、ソノ報告漫画ヲ情報局ノ斡旋ニテ、新聞、雑誌等ニ発表、又、展覧会ヲ催ス。

○色紙ハ情報局ヨリ提供ス。

○日程等、詳細後日発表。

○出張中、徵用令ノアツタ場合ハ情報局ヨリ不在証明書ヲ出ス。

○■(欠字)ノ都合上、必ズ来ル三月六日マデニ左記ニヨリハガキニテ奉公会事務局マデ御返事ヲ乞フ。

敬具

二月二十五日の情報局からの依頼を受けて、各会員の参加募集の締切が三月六日となっており、この約二週間の間に配布されたものと思われる。その後、派遣する会員が決まり、期日が迫った段階で次の「日本漫画奉公会炭坑感謝隊明細」の案内が会員に送られた。

情報局、石炭統制会派遣

日本漫画奉公会炭坑感謝隊明細

一、目的―増炭感謝奨励と今後の定着と精勤を奨め猶家族其他の慰安激励をなす。

一、目的地―別表に示す。

一、進発式―三月卅日午前十時より石炭統制会々議室にて挙行

(但シ遠隔地会員の不参は止むを得ずとす)

一、出発―四月一日、汽車二等(切符買入交渉中)

九州隊北海道隊共全部同時に乗車不可能の状況なれば各班毎に乗車のこと、九州隊は三食分、北海道隊は二食分常磐隊は一食分の食糧を携行のこと 九州隊は大阪方と乗車連絡のこと各隊共到着駅に統制会支部の出迎へあり、又各方面へは本部或は支部より一名附添ふ 宿舎は現地の添乗の方に一任、分宿になると思ふ、一切の行動は支部の指示に従ふ事

一、服装―防空服装(ない者は質実な服装たること。背広でも脚絆を巻くこと)、戦闘帽、リュックサック、腕章名札等を忘れぬこと(腕章なき方は本部事ム所へ申出られたし、名札は縦六糎横四糎の白布に姓(筆名の)を記入して左胸部に縫ひつけること)服装に就ては炭坑側に反感を持たれた実例あり。特に注意

を要す。

一、所持品―似顔用紙は色紙が間に合はぬため、画用紙八つ切を各自、分に応じて携行す。用紙は出発前各班長より配給のこと、他に筆墨、絵の具、落款、印肉等(用意なき者は至急整へること) 一、現地の仕事―似顔、つとめて親切によく描くこと(漫画でなく似顔たること) 家族への慰安、常会、座談会等各班にて趣向を立てること

一、帰路―は行動自由とす。立寄りたき所は帰路に願ひたし。

一、報告会―四月二十日頃石炭統制会々議室に全員集合のこと

一、作品―この行についての作品は一応情報局国民運動課小島氏の手許まで提出。各個人への注文も一応小島氏まで提出のこと。

一、展覧会を開催し一人三点前後を出品、東京にて開催後各炭坑へ

寄贈す

☆注意―一、風紀ヲ紊サザルコト一、絶対ニ統制ニ服スルコト一、物資ヲ漁つたりせぬこと一、規律正シク行動スルコト以上嚴格ニ守ラレタシ。

最終的な派遣内容では、先に参加を募る案内文とは異なる内容で派遣が行われることとなった。それらの変更点をみると、戦中のさまざまな物資不足、統制下での様子が見受けられる。

まず、出発にあたっては、移動中の食糧は各自携行するように指示されている。常磐隊は近くのため一食分で済むが、北海道は二食、九州は三食分の食糧を持参する必要があった。当初の案内文の通り、石炭統制会から食費を支給されたとしても、十九年当時の食糧自体が手に入り



くい配給生活の状況を考慮すると、画家にとって大きな負担になるものと考えられる。服装は防空服装もしくは脚絆を巻いた背広とし、名札には本名ではなく筆名を記すよう指示をしている。また、紙については情報局が色紙を用意することになっていた。しかし実際には「色紙が間に合はぬため」と、出発前に画用紙が配給されていることから、紙不足の実情がうかがえる。

さらに、東京支部の会員へは「東京例会員へ」という進発式の案内文が別に送られている。この案内では進発式が東京・大手町の日本石炭株式会社（石炭統制会）が式場であること、その際に汽車の時間や絵の具代が支給される旨が記されている。絵の具代は、当初一日一〇〇円が支給されることになっていたが、九州・北海道組は十五日間で二〇〇円ずつ、常磐班は七日間で五〇円と、減額で支給されることとなった。この絵の具代は進発式の際に、汽車の時間と一緒に支給されることになっていた。当時の絵の具代の相場については、国産の学童用水彩絵の具（二色入）が十六年三月の公定価格で一円三〇銭<sup>2</sup>である。プロの漫画家が一人あたり制作する似顔絵の枚数を考えても、絵の具代一〇〇円の支給は決して多くはない金額である。

さらに物資の問題とは別に、服装については、「炭坑側に反感を持たれた実例あり」とし、質素なものを着用するよう特に注意を促している。また、最後の注意書きにも改めて「風紀ヲ紊サザルコト」と記しているように、過去には派遣先で服装をはじめ、奉公会の会員の行動に関する問題も起こっていたことがうかがえる。

このような奉公会会員の慰問活動は、農村・炭坑のほか、軍需工場など全国の工場へも派遣されており、その主たる目的は増産奨励と、職

員及びその家族の慰問であった。例えば、奉公会の書類綴りの中には、二十年の工場慰問に関する資料が残されている。

#### 工場慰問 昭二〇

日本造船（横浜） 二月十日

日立製作（川崎） 三月三日

日本造船（鶴見） 三月十二日

日本鋼管鶴見製鉄（鶴見） 三月七日、八日

東洋汽缶（横浜） 三月十四日

浦賀ドック（神奈川） 三月二十七日

九州十工場（産報本部派遣） 四月中

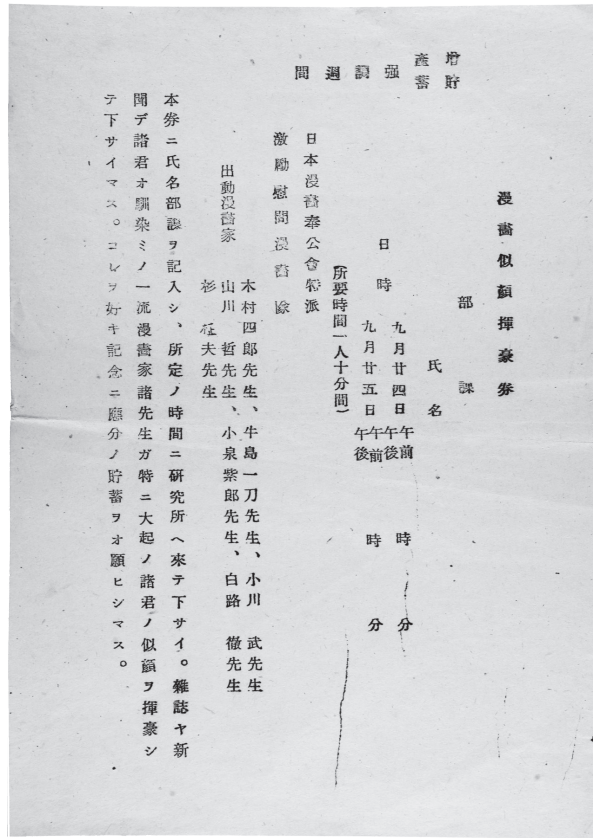
近畿十工場（〃）

中国十工場（〃）

東海十工場（〃）

日立蘇我工場（〃）

二十年の二月、三月中に六工場に派遣し、さらに四月には九州ほか各地方の工場へ派遣する行程になっている。実際、この行程通りに工場慰問が行われたかは不明であるものの、奉公会会員の多忙な活動の様子がうかがえる。これら派遣先の工場で、会員は班ごとに配置され、一日かけて似顔絵を描く活動を行っていた。なかには、「漫画似顔揮毫券」（図13）の券のように、各工場の部署毎に似顔絵の受付時間を区切り、より多くの人々が似顔絵を描いてもらえるような工夫がされた。この揮毫券は、「増産貯蓄強調週間」の「激励慰問漫画隊」が派遣された際のもので、



七名の漫画家の名前と共に、券の使い方が次のように記されている。

本券ニ氏名部課ヲ記入シ、所定ノ時間ニ研究所へ来テ下サイ。雑誌ヤ新聞デ諸君オ馴染ミノ一流漫画家諸先生ガ特ニ大起ノ諸君ノ似顔ヲ揮毫シテ下サイマス。コレヲ好キ記念ニ應分ノ貯蓄ヲオ願ヒンマス。

このような揮毫券が予め配布され、この慰問の場合には「増産貯蓄強調週間」に沿って、似顔絵を揮毫してもらう代わりに貯蓄を促すという主旨が読み取れる。

### ⑩ 走るマンガ展

この展覧会は、十九年七月二十二日から都内を走る都電やバスの中に掲出された展覧会である。東京都交通局、読売新聞社、奉公会が主催となり開催された。読売新聞社が作成した展覧会を説明する資料によると、その主旨は次の通りであった。

#### 走る漫画展

東京都交通局が七月一日より七月末日迄展開せんとする「明るい輸送」運動に協力左記要項により「走る漫画展」を開催す  
 主催 東京都交通局、日本漫画奉公会 読売新聞社  
 期日 七月中旬より一週間の予定

作品 日本漫画奉公会々員に依嘱製作、都電（十六種一千六百枚）バス（十六種一千九百二十枚）内に明朗なる漫画を掲載、乗換の都度異なる漫画を都民に観賞せしむ。

このように開催の概要が記されており、その大きな特徴は会場での展覧会とは違い、交通機関の中に取り入れることで日常的な観賞を促すものであった。

この展覧会の準備にあたって六月二十二日、読売新聞社事業部に各担当者が集まり、打合せが行われた。奉公会の小川武が記録した「第一回都電マンガ展『走る漫画展』打合せ」資料によると、出席者は読売新聞社から事業部長、事業次長の二名、東京都交通局関係者一名、奉公会からは理事長麻生豊ほか理事の小泉紫郎と小川武が出席している。この打合せでは主旨が次のように話されている。



「主頁」情報局の銃後明朗化運動に呼応して都電内に明朗なマンガを掲げ、それを見たお客が家庭の話題となるようなもの、従来のお説教漫画でなく、あくまで面白く美しいもの（車内明朗のものもくらかほしい）

戦意高揚や、国策に沿った漫画を多く制作してきたなかで、今回の「走る漫画展」では「従来のお説教漫画」とは異なるユーモアが求められていたことが分かる。作品の大きさは、大型だと縦八寸五分、横一尺五寸九分で一六種、小型では縦七寸六分、横で一六種、合計三二車庫系統で三二種が必要とされた。色は赤・黄・黒の三色刷りが指定されている。また、説明文については「なるたけカンタンに多くても十五六字位にしたい。画面の一定した場所へ漫奉の字句を印刷されたい」との指示がされている。七月二十二日付『読売新聞』には「都民の足に明るい涼風」の題で次のように紹介されている。

けふ二十二日から、走る都電やバスのなかで都交通局、漫画奉公会、本社主催の『走る漫画展』が開かれる、戦争がどんなにはげしくなつても、いやはげしくなればなるほどわれわれの生活は明るく強く生氣にみちあふれたものになりたい、たださへとがりがちな神経が朝夕、すし詰めの電車やバスに乗ると急にとげとげしく焦立つて来る、その殺気立つ車内に総親和の涼風を送つて、元気で職場へいそぎ、たのしく家庭へ帰つて戦力増強に頑張つて貰はうと漫画奉公会員たちが描きあげた漫画展である

戦力増強

勝ち抜く漫画巡回展

御案内

激励性と慰問性

生産戦に於いて敵に勝つ事こそ戦争勝利の鍵だと云はれる。尤大な敵の量に對抗して日夜生産戦に挺身する産業戦士の姿に一般国民の感謝は深まりつゝある、「勝ち抜く漫画展」はこの感謝の表徴である。

各漫画家が工場、農村、漁村の中から直にかみ出してきた、あらゆる産業生活角度の造型化である。戦争、政治、文化、歴史、家庭等豊富な資料の諷刺化である。

漫画の持つ独自の強烈な訴求力と明朗な諷刺は、必勝信念の積極化をはかり、日常生活に楽しい雰囲気を作り出すであらう。

主催 日本漫画奉公会  
日本産業経済新聞社  
後援 軍需省、逓通省、情報局

随時各重要工場、鑛山等に「巡回展」を開催し、いさゝかたりとも戦力増強に資し得れば幸であります。

(作品寸法) 二尺八寸—二尺四寸 横型、縦型

(總點數) 九十三點

會期は大體一工場三日間位を單位とし、費用其他に就いては御申込次第御打合せ致します。

申込所 日本産業経済新聞社 企画局 漫画展係

東京日本郵便局 電話室(66) 〇二五—(九)

作品目録		百千橋の増強と百千人分の一ミリの敵	
上野の町 (一)	谷内 六朗	船	千三郎
同 (二)	同	牛	島 一 刀
終夜勤務者解雇の團	宮下 森	がらげり	寺 尾 よしたか
夢魔に呼ぶ	吾 野 昌 第	増産強要も必死	岡 本 てうわ
今一と君	生 岡 二 刀	何でも敵でも叩きつ寄せ	志 村 つね平
遊 作 (一)	安 本 秀 一	今般風の編入	小 川 武 壽
同 (二)	同	海空戦隊	藤 崎 天
同 (三)	同	勝ち抜く日まで	寺 尾 よしたか
同 (四)	同	次は僕等の常盤だ	惟 子 ス・ム
同 (五)	同	強は男の征とく	池 田 永一治
次代の少年飛行兵	宇 野 一 路	増産のひととき	池 田 勝 天
一億強丸	島 田 三	増産のひととき	志 村 つね平
飛 龍	田 比 左 兵 衛	増産のひととき	内 田 清 三
繁華の夜	同	増産のひととき	北 口 啓 天
繁華は朝から	影 形 夫	増産のひととき	北 口 啓 天
津田田の悪漢	下 川 四 天	増産のひととき	北 口 啓 天
大増産不動	清水 対 伍 坊	増産のひととき	北 口 啓 天
名木無名	清水 鶴 橋 市	増産のひととき	北 口 啓 天
海の民なら	寺 尾 よしたか	増産のひととき	北 口 啓 天
供 本	小 泉 繁 郎	増産のひととき	北 口 啓 天
遊戯(供本)	宇 野 一 路	増産のひととき	北 口 啓 天
供 本	三 上 千 坊	増産のひととき	北 口 啓 天
新形式の遊戯(供本)	影 形 夫	増産のひととき	北 口 啓 天
不審な遊戯	小 泉 繁 郎	増産のひととき	北 口 啓 天
羽島の角力	井 上 二 郎	増産のひととき	北 口 啓 天
編組は大騒動	山 本 一	増産のひととき	北 口 啓 天
聞かれば感なし	藤 本 暎 一	増産のひととき	北 口 啓 天
聞かばあり	藤 本 暎 一	増産のひととき	北 口 啓 天
カボチャは飛行機	森 比 呂 志	増産のひととき	北 口 啓 天
組母も空へ飛ぶ	川 村 みのる	増産のひととき	北 口 啓 天
泣き一家	酒 井 ふじを	増産のひととき	北 口 啓 天
防空飛行	山 口 豊 専	増産のひととき	北 口 啓 天
乗り持たれる伊達船	佐 田 宗 邦	増産のひととき	北 口 啓 天
胸がなんでも	三 上 千 坊	増産のひととき	北 口 啓 天
カボチャ作れ	三 上 千 坊	増産のひととき	北 口 啓 天
第二回民も奮闘	佐 藤 克 輝	増産のひととき	北 口 啓 天
私は負けな	山 川 一	増産のひととき	北 口 啓 天
乙女下の一倍強	北 澤 聖 夫	増産のひととき	北 口 啓 天
三太郎やい	森 比 呂 志	増産のひととき	北 口 啓 天
生産増強	白 崎 謙	増産のひととき	北 口 啓 天
競とる心 (一)	白 崎 謙	増産のひととき	北 口 啓 天
肉肉(やめ)	同	増産のひととき	北 口 啓 天
今半をゆるめてはならぬ	内 田 清 三	増産のひととき	北 口 啓 天
増産強士(作業)	同	増産のひととき	北 口 啓 天
増産強士(作業)	同	増産のひととき	北 口 啓 天
増産強士(作業)	同	増産のひととき	北 口 啓 天
アメリカも遊つて	同	増産のひととき	北 口 啓 天
空の兄に私も勝つら	中 村 宝 助	増産のひととき	北 口 啓 天

図14 「勝ち抜く漫画巡回展御案内」チラシ



戦時統制下で人は神経をとがらせながら日常生活を送るなか、奉公会が面白い漫画を通じて、社会の雰囲気をも明るくする役割を期待されていたことが分かる。

⑦ 勝ち抜くマンガ展

この展覧会は十九年五月二十四日から開催された展覧会である。日本橋の三越本店で一週間開かれ、北沢楽天をはじめ多くの漫画家が出品している。記事には「機智に溢れた風刺画や時問題を即妙に戯画化し、士気昂揚を狙った朗らかな画が都民の興味を惹き初日の来観者は青少年が圧倒的に多かつた」と紹介されている。奉公会が残した資料によるとこの展覧会の参加者は五〇名となっている。参加者の内訳は、東京支部の会員が四四名、関西支部と地方在住の会員が六名であり、展示数が九三点、受賞作品数が二五点あったことが記されている。受賞作品は、くろがね会賞が麻生豊の「総ては戦力」のほか三点、海防義会賞が宍戸左行「私は負けない」ほか三点、日本産業経済新聞社賞が牛島一刀「今一いき」ほか六点、奨励賞が島田啓三「一億弾丸」ほか九点であった。

この展覧会は当初より全国巡回を目的に計画されており、その開催地を全国に募集するためにチラシが作成された(図14)。「勝ち抜く漫画巡回展御案内」には、次のように概要が記されている。

激励性と慰問性

生産戦に於いて敵に勝つ事こそ戦争勝利の鍵だと云はれる。膨大な

増強力 **勝ち抜く漫画巡回展**

期日  
場所  
右記希望に付申込候也  
昭和 年 月 日  
會社住所  
會社名  
日本産業経済新聞社漫画展係 御中

敵の量に対抗して日夜生産戦に挺身する産業戦士の姿に一般国民の感謝は深まりつゝある、「勝ち抜く漫画展」はこの感謝の表徴である。各漫画家が工場、農村、漁村の中から直かにつかみ出してきた、あらゆる産業生活角度の造型化である。戦争、政治、文化、歴史、家庭等豊富なる資料の諷刺化である。漫画の持つ独自の強烈な訴求力と明朗な諷刺は、必勝信念の積極化をはかり、日常生活に楽しい雰囲気を作り出すであらう。

展覧会の作品には、それぞれの漫画家が慰問などで訪れた各工場や、農村などの地方の様子がテーマとなっていたことが分かる。あわせてこのチラシは日本橋・三越以降の開催地募集を呼びかける案内文書にもなっている。

随時各重要工場、鉱山等に「巡回展」を開催し、いさゝかたりとも戦力増強に資し得れば幸であります。

(作品寸法) 二尺八寸—二尺四寸 横型、縦型

(総点数) 九十三点

会期は大体一工場三日間位を単位とし、費用其他に就いては御申込次第御打合せ致します。

チラシの左半分を切り取って、申込用紙として使用できるようにしている。展覧会の開催には費用はかかるものの、地方の一工場や鉱山の単位で申し込みが可能であった。

これまで、奉公会の展覧会や慰問活動を中心に取り上げてきたが、会員の多くは出版物（原稿）やポスター、双六などの制作についても多数の作品を残している。

当館で所蔵している「決勝双六」は、昭和十九年に複数名の漫画家により制作されたものである（口絵2・図16）。一コマの中に漫画家がそれぞれ、漫画と標語で国民に国策への協力を説いたものである。例えば、「一戦ふ力は朝詣でから」のコマは幸内純一が担当し、朝の寺社への参拝



図15 「決勝双六」部分

が描かれている。そのほか、横山隆一による「二 生かして使へばポロでもニシキ」、上がりは山本一郎が描いている。各コマの詳細な漫画と標語については、当館が平成二十八年三月に開催した特別企画展「双六でたどる戦中・戦後」の図録に掲載している。

またポスター制作などは、奉公会が個別に漫画家に依頼するものや、各会員に文書で通知し下絵を募集する等の方法で制作している。十八年に奉公会が募集した「報国漫画ポスター」案は次のような概要であった。

平凡なポスターが汎濫してその効力は疑はれつゝある際、漫画家の奮起を促す声が諸方面に高まって来ましたので、此度、皇国青年教育協会の協力を得まして、毎月三回、国策宣伝用「報国漫画ポスター」を発行し、全国に頒布する計画を樹てました。これには大日本産業報国会が全面的に後援して下さるし、情報局の諒解もありますから、いよ／＼この秋を期して漫画の総力を發揮し、ポスター製作に画期的な飛躍を試みたいと思ひます。

最初の募集は見本用の下絵であります。入選の分には相当の賞金を差上げます。君国に報ずるの情熱を以て、左記要項により、全会員、奮て御出品あらんことを切望します。

- 一、期限 十一月二十五日迄に、本会に御持参又は郵送
- 一、画材

①大東亜十億総躍起―米英撃滅、東亜新秩序建設等、何でもうんと景気のいゝやつ

②一億国民敢闘―職場の奮起、学鷲出陣、女子勤労挺身、就業禁止者転身策、元気に満ちたやつ

②国民生活錬成―実行可能でおもしろい思ひつきを…例へば  
全国民（但男子）総いがぐり頭運動など

③職場の創意工夫―近く産業報国会で職場の創意工夫運動を  
展開する、生産隘路打開の妙案を示すもの

（備考）本ポスターは主として産業戦士に展示するもの故その  
おつもりで…

一、大きさ 1,35尺×0,9尺の紙面一杯に。縦でも横でもよろし、又一  
回でまとまるものなら、六ツ割までつゞき絵にてもよろし

一、彩色 印刷は四度刷以内につきそのおつもりで。

一、点数 制限なし。

以上

昭和十八年十一月八日

日本漫画奉公会

このように、奉公会在制作するポスターには、展覧会作品などと同じ  
ように、教化的なものではなく、「景気のいいやつ」「元気に満ちた」「  
面白いおもしろい」のものが求められた。戦時下の「説教的」なプロパ  
ガンダが蔓延しているなかで、奉公会の活動への期待が多岐にわたる制  
作物の依頼と、制作数に現れていると言える。

おわり

今回紹介した「新日本漫画家協会」及び「日本漫画奉公会」の資料群

は、会員に配布されたと思われるガリ版刷りの書類や、手書きのメモ書  
きのものが大半を占める。協会及び奉公会は、公的な機関でないことか  
ら、現存する資料が少ないためその活動実態の多くは未だ明らかにさ  
れていない。今後は、残された資料を中心に、所属していた漫画家たち  
の資料と共に読み解き、さらなる調査研究に取り組んでいくことが重要  
な課題である。

〈注〉

（1）小川武 明治四十一年（一九〇八）―平成元年（一九八九） 東京都出身

北沢楽天に師事。大正十四年（一九二五）から時事新報日曜付録「時事漫画」  
で活躍。画風は河盛久夫の影響を受けている。風俗漫画を得意とし、河盛が  
去ったあとの『時事漫画』『漫画と読物』で力作を次々と発表。代表作に「ま  
ぬけのヌーさん」。戦後に『VAN』『読物と漫画』などに寄稿。その後『野  
球ニュース』編集長、スポーツ記者などを勤める。晩年は小川皿皿の名でル  
ポ漫画を描いた。

（2）週刊朝日編『値段史年表 明治・大正・昭和』朝日新聞社、昭和六十三年